

山形県食健連 米価などで県要請

つなぎ資金で意見交換



2014年11月16日
-70号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子
<連絡先>
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

10月23日から24日まで2013年度の決算審査が行われました。23日の決算特別委員会・決算分科会では、主に2つの課題を取り上げました。

学給給農の要件緩和を求めます

現状の報告と取り組み強化を食育の観点も加えて求めました。当局からは昨年度は、32・5%の目標だったが大雨の影響で30・2%にとどまったこと、品目や貯蔵の工夫、加工品の採用など比率向上に向け、検討が続けられていること、給食費とのかねあいも課題となっていることなどが答弁されました。

青年就農給付金の要件緩和について

山形県の新規就農者は昨年度251人、今年度264人と伸びています。私は、この間の県の就農者の育成・定着に関する総合的な取り組みを一定評価しつつ、国

の青年就農給付金における要件緩和を求めました。農家出身者が活用する場合は、新たな事業への取り組みが要件とされています。「農家を継ぎたいという意欲を持った青年後継者対象にならないことがある」との声をあがっていました。私が、要件緩和を求めたの

に対し、当局は「もともと農外からの新規参入者を想定した制度である」との答弁にとどまり、自民党県議の一人からは「厳しくチェックすべき」との発言がありました。私は、「現行の青年就農給付金で、Uターンなど農家出身者が半数以上活用し



10月19日山形県「赤旗」まつり山下書記局長が講演。来春の県議選に向けて決意表明を行いました。写真は関とおる候補（鶴岡市）と渡辺ゆり子ゆり子県議

ゆり子の視点 私学フェスティバルに参加

小雨ふる寒い日でしたが、私学の高校生たちの熱気でいっぱい。公私間格差をなくしてほしいと私学助

成の充実を求め、高い実態を訴えています。在校生、父母、教師が毎年開催してきた私学フェスティバル。今年は、5人の子を持つ父母代表のお母さんの訴えが心を打ちました。私学で学ぶ喜びを実感している子どもたちの様子を述べながら、お金の心配、奨学金の返済の不安を抱きながらの厳し



食の安全・安心と米価暴落対策で食健連県要請に同席

11月7日、山形県食健連（国民の食料と健康を守る山形県連絡会）と山形県農民連は、県に「TPP秘密交渉からの撤退、再生可能エネルギーを基礎にした政策への転換など地域を守るための申し入れ書」と「米価暴落に対する県独自施策実施などの要望書」を提出し、私も同席しました。県からは、吉田篤史農政企画課長らが出席し、対応しました。



山形県食健連・山形県農民連の県要請に同席する渡辺県議（中央）

また、米価暴落に対する県施策についても要望し、意見交換を行いました。参加者からは、大規模農家ほちとくらし、食の安全・安心を確立し、人の住める地域づくりを進めるための政府への要請書への賛同を求めています。さえも、先行き不透明で借り入れに不安の声がある実態などが出されました。